

神奈川県立金沢文庫特別展「武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界」関連企画

「師岡・法華寺所蔵の大般若経の調査」

2021年5月8日（土）*20210510Web版：修正・リンク追加

藤原重雄（東京大学史料編纂所）

1、概要

法華寺（天台宗熊野山全寿院、横浜市港北区師岡町）所蔵

図録No.6『江戸名所図会』 『新編武蔵国風土記稿』（[国立公文書館浄書本](#)）巻67（[活字本](#)）

三三〇帖：折本装、写本（院政期～鎌倉期：12～13世紀を主体） 図録No.21、71～74頁

旧箱（請箱）一点：貞治四年（1365）銘 図録No.22

横浜市指定有形文化財（書跡・典籍）令和元年（2019）11月5日

2、調査経緯：「絵図から広がる世界」

東京大学史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』[釈文編二・中世一](#)（[東京大学出版会](#)、2016年4月）の編纂。

『日本荘園絵図聚影』全七冊（本編）1988～2002年刊：大型写真図版を収録。

釈文編は、トレース図＋文字注記の翻刻、原本情報・研究情報を簡潔に記述。

金沢文庫所蔵「鶴見寺尾郷絵図」図録No.1、称名寺所蔵「称名寺絵図並結界記」を調査。

『横浜市史稿』仏寺編（1931年）62～64頁に、法華寺所蔵『大般若波羅蜜多経』に関する記述と、巻百九十二の文永二年（1265）書写[奥書の図版](#)。

2013年12月、横浜市教育委員会の文化財確認として、金沢文庫・横浜市歴史博物館・史料編纂所から法華寺にて現状を拝見。同月、金沢文庫にて燻蒸、寄託。

先行して仏像の悉皆調査（2002・2013年の市概報）。

史料編纂所（伴瀬明美・小瀬玄士・堀川康史・藤原）、金沢文庫（梅沢・貫井・三輪）ほかにて調査開始（市教委からの委託へ）。

クリーニング、全体像の把握、断簡整理、調書・目録作成。撮影は未了。

*『横浜の文化財 横浜市文化財総合調査概報』25（2017年3月）中間報告：図版掲載

*『横浜の文化財 横浜市文化財総合調査概報』26（2019年3月）本調査報告：目録掲載

*『武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界』（2021年3月）概説 →本日も修正

*「横浜市記者発表資料」令和元年10月18日「[令和元年度新たな横浜市指定・登録文化財](#)」

2 紙本墨書 大般若経 附 旧経箱残欠（典籍）平安時代後期～室町時代

所有者：宗教法人 法華寺 所在地：港北区師岡町

法華寺が所蔵する大般若経である。奥書から元久2年前後に近隣の池辺郷に本拠を構えていた草壁部末友夫妻の発願で製作されたものと推測される。鎮守の寺社の神前において、年中行事として『大

般若経』を転読し、氏子・檀徒の息災を祈る儀礼は全国に分布するが、法華寺の場合は発願以来 800 年余りの間連綿と年中行事で使用され続けたことが明らかであり、有形文化財としてだけでなく地域の伝統を伝える文化遺産としての価値を有している。

→横浜開港資料館 (2019 年 12 月 : パネル)、横浜歴史博物館 ([2020 年 12 月](#) : 原本) の新指定文化財展

3、主要な奥書から [文庫 TW](#)

本文書写の筆跡・料紙からの写本グループの分類：重複する巻は未確認。補充された巻はあるが、混成的な性格は薄いか。

『横浜の文化財』26 所収の「識語一覧」(本日添付資料)

【治承六年】(1182)

不改元号(不改年号)：東国では安徳天皇の元号を用いず。 図録 No. 31 (静岡市・久能寺)

治承五年(1181)七月十四日、養和と改元。平氏政権、源頼朝・義仲の追討へ兵を向ける。

養和二年(1182)五月二十七日、寿永と改元。「治承六年八月」→東国での書写

寿永二年(1183)東国では「治承七年」、頼朝も三月～八月に寿永二年へ改める。

寿永三年(1184)四月十六日、元暦と改元(後鳥羽天皇踐祚)。平氏政権は寿永のまま。頼朝も七月頃から。

元暦二年(1185)三月、安徳入水、平氏滅亡。八月十四日、文治と改元。

(文化庁の書跡指定での「平安院政期」。『大日本史料』第四編：十一月二十九日、文治勅許)

【元久二年】(1205)

「元久二年十一月廿三日、向奉 大久万別処東城寺毘沙門堂主大仏頂持者金剛仏子乗蓮房源朗(生年四十五)」に復元される(ただし全ての字句が揃う事例はない)。

「向け奉る」：奥書識語で見かけない文言。廻向のような意味？ 「迎」の意味(指定調書)？

本来の意味を活かすと、「差し向ける、送る」。ただし「奉向」の文字順が通例。

→「東城寺の乗蓮房が、大久万別処へお送りする。」？

「大久万別処である(の)東城寺毘沙門堂」と読む自然さは残るが、書記のあり方から「向奉 大久万別処、」と切ることも可能。

「元久二年十一月廿三日、向奉 大久万別処、 乗蓮房」が奥書文言の骨格。

東国における「別所」の存在を示す事例としても貴重。

*別所(べっしょ)：古代学協会編『平安時代史事典』(角川書店、1994年)

十一世紀前半から院政期を通じて現れる私領・公領の中に形成された宗教施設。多く空閑地を切り開き、そこに堂舎僧房等を建て、且つ占定を容認された周辺の地を開発して、経営基盤の一部とし、万雑

公事を免除される例もある。本寺・本坊に対して別所というが、本寺・本坊を持たない別所もある。院政期に集中的に形成され、延暦寺の黒谷・大原、金剛峯寺の東・中・新・千手谷、東大寺の光明山寺、興福寺の小田原別所等の大別所があり、その中には千人、二千人の別所聖を擁したものもあり、その一方数人が居住する小別所もあった。また別所の分布は、東国よりは畿内・西国が圧倒的に多い。既成教団から離脱した聖や相対的自立性を持った僧たちの集団生活の場で、彼らの遁世・隠棲・願生の宗教的営為の場であるとともに、周辺地域に化他の活動を行う聖もあり、それに結縁する人たちもいた。それとともに、別所それぞれ自体が、迎講・不断念仏・法華八講・涅槃講・仁王講等を集团的に営み、周辺住民がこれに結縁している。また忌日仏事を委託されたり、写経を行っているし、別所の維持や仏事勤行のためにも、別所側からの勧進が行われた。しかし中世になると、別所の多くは本寺の末寺や子院になったり、周辺寺院の末寺化して、史料の上からその姿が消える。別所の形成は院政期の特色の一つで、この時期の聖たちの活躍とからみ合っていたといえよう。(参考文献略)(高木豊)

*高木豊「院政期における別所の成立と活動」(『平安時代法華仏教史研究』平楽寺書店、1973年、初出1967年)

*奥野義雄「古代・中世における別所寺院をめぐって一二形態の別所寺院の経営と寺僧・聖による仏教信仰の流布を中心に」(伊藤唯真編『日本仏教の形成と展開』法蔵館、2002年)

○大久万別処：都筑区大熊町 [地理院地図](#)

『新編武蔵国風土記稿』巻八十四・都筑郡四：大熊町 *[活字本](#)

東は新羽(につば)村、西は折本村・東方村、南は小机村・川向(かわむこう)村、北は勝田(かちだ)村。 →ほぼ現在の[大熊町](#)と仲町台

小名(中略)引地、薬師谷くニケ所ともに東の方にあり、) 将監谷く北よりを云、) [毘沙門谷く西の方を云、古へ毘沙門堂ありし故かく云、今はこの堂長福寺に移す、\)](#)

熊野社(中略)別当長福寺(中略)末社毘沙門堂く本社の傍にあり、)

※[長福寺](#)：曹洞宗久松山、天正三年(1575)開山、都筑区仲町台4-8-10。

「大久万別処東城寺毘沙門堂」であればどこか？ 開発拠点となる宗教施設。

*国土地理院：[1948年空中写真](#)、[1979年空中写真](#)、谷謙二：[今昔マップ](#)

○東城寺：筑波山南東麓の天台系古刹。常陸国(茨城県土浦市、もと新治村)

・寛和三年(987)正月二十四日「太政官符」(『続左丞抄』一) *[刊本](#)

平繁盛(常陸平氏、大掾氏の祖)が金泥大般若経の書写し、延暦寺へ送ろうとする。武蔵国で妨害を受けていると訴える。

書写にあたっての底本となる『大般若経』が筑波山麓に存在。東城寺にも可能性がある。

経典書写に必要な条件：料紙(経師)、書写(僧侶等)、底本(寺院等)：これらを可能にする財力(檀那)・組織する力

- ・保安三年（1122）・天治元年（1124）銘の経筒（[東博蔵](#)）
- ・愛知県津島市・西光寺の地藏菩薩立像（もと水落地蔵） *[名古屋市博](#)
像内納入品として文治三年（1187）の諸国勸進帳。常陸国での開始は東城寺。
- *岡野浩二「常陸国東城寺と最仙・広智」（『中世地方寺院の交流と表象』塙書房、2019年。初出2011年）
- *土浦市立博物館編『[東城寺と「山ノ荘」](#)』（2021年）
- *『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代・造像銘記篇16（中央公論美術出版、2020年）補遺16（井上大樹）

【元暦元年】（1184?）

「元暦元年（癸卯）九月九日」：元暦元年は甲辰。癸卯は前年（寿永二年 or 治承七年）。粗放な書き方。元久二年の上に重ね書きする事例あり。少なくとも後に転記されたもの。文永二年写本と近い帖にもあり。

何らかの由緒に基づき、遡及して記されたものか。草壁氏+伴氏。

「縁友」：縁共。夫婦の意。平安・鎌倉期の語彙で南北朝期を境に消滅してゆく傾向。夫婦関係を社会的変化。

- *峰岸純夫「平安末・鎌倉時代の夫婦呼称の一考察」（『日本中世の社会構成・階級と身分』校倉書房、2010年）

「都筑郡池辺郷」：近世には池辺村。 [図録](#) No. 29

4、経箱の一部

[図録](#) No. 22 奪衣婆坐像（旧閻魔堂所在）の台座に転用されて伝わる。

底に墨書「貞治四年（1365）〈乙巳〉二月廿四日新造、花城坊」

側面に朱漆書「式百一」：一般的には巻200までのうちの第一帙（巻101～110）

観応二年（1351）に雷火による焼失し、復興したとの縁起（[図録](#) 75・76頁）。

貞治二年「法華寺毎日例時番帳次第」（[図録](#) 81頁：[活字本](#)）の十七坊。永享十三年（1441）修理奥書の禅鏡坊も。

降っても貞治四年までには、法華寺の所蔵となっていた。

- *阿諏訪青美「港北区師岡の法華寺全寿院と近隣村—横浜市域における中世村落像解明への試論—」（『横浜市歴史博物館紀要』8、2004年）
- *阿諏訪青美「中世小机庄域における師岡地域—港北区師岡町法華寺を中心に—」（『横浜市歴史博物館調査研究報告』1、2005年）

5、大般若経と中世社会

大般若経：全 600 巻の大部な漢訳大乘仏典。書写・読誦・転読による功德。仏法の象徴。

大般若経の転読：国家安泰・五穀豊穰、臨時の除災・個人祈禱、神前法楽。宮中・中央寺院から、地域社会の年中行事へと定着。悉皆調査と民俗調査。

*ちたまる Nabi [「大般若経から中世の大夫を知る」](#) (2020 年 11 月 16 日) *愛知県大府市・延命寺 (南北朝～室町写)

*メディアネット宇陀 [「室生里めぐり 2013 大宇陀岩室 皇太神社「大般若経転読法要」](#) (2013 年 10 月 21 日) *奈良県宇陀市大宇陀岩室 (院政期写)

*堀池春峰『南都仏教史の研究』遺芳篇 (法蔵館、2004 年)

*高橋正隆『大般若経の流布』(善慶寺、1995 年) *滋賀県調査での参考書

*稲城信子『日本中世の経典と勧進』(塙書房、2005 年) *奈良県調査

*加増啓二『経典と中世地域社会』(日本史史料研究会、2017 年) *武蔵国の事例

長弁『私案抄』：多摩川流域における宗教活動 *[国会図](#)：[祖本](#)

惣社六所宮：[嘉慶二年 \(1388\) 般若会](#)、[正長二年 \(1429\) 大般若経の施入](#)。

深大寺：[至徳元年 \(1384\) 十六善神画像の施入](#)。[年不詳、大般若経転読の意趣書](#)。

河崎郷山王社 (現・稲毛神社)：[応永十一年 \(1404\) 大般若経の施入](#)。

*湯浅治久「室町期南武蔵における寺社の転換—長弁『私案抄』読書ノート—」(佐藤博信編『中世東国の社会と文化』岩田書院、2016 年)

*調布市市史編集委員会編『私案抄 深大寺住僧長弁の文集』(調布市史研究資料 3、1985 年)

師岡熊野神社蔵「師岡熊野神社縁起書」 [図録](#) 75・76 頁 *[神社 HP](#)

*神奈川県立歴史博物館編『聖地への憧れ—中世東国の熊野信仰—』(2005 年) を修正 (原本には訓点あり)。

牛玉宝印版木、十二龍頭とともに宝物。雨乞い儀礼。

*「はまれぼ」[「港北区師岡熊野神社の失われた神事とは？」](#) (2016 年 7 月 6 日)

大般若経：承安四年 (1174) の旱天により、延朗上人 (源義信息) に祈雨祈禱の勅命があり、その験があった功として奉納された、高倉天皇勅筆のものとする。正月八日には転読。

宝暦八年 (1758) 修理

佐倉藩主堀田正亮を筆頭に、諸大名から計 466 巻分の修覆紙の寄附を受ける。

*「師岡熊野神社文書」三四 [熊野大神等寺社書上]：横浜開港資料館閲覧室架蔵写真帳

*吉川英男『全寿院法華寺縁起考』(私家版、2008 年)：[市立図](#)・[県立図](#)・[横浜歴博](#)

現状への改装：それ以前の折幅 (10 行幅) は踏襲、折筋の位置はずらす。 [文庫 TW](#)・[同](#)

卷子→経箱新造→折本改装（請箱は継承）→宝暦修理

6、比較すべき近隣の大般若経

鎌倉時代までの写本を主体とし、まとまった分量で残り、中世以来の伝来。

○寿福寺：川崎市多摩区菅仙谷（市指定）

比較的近い場所に中世以来伝来し、辿った歴史でも類例。建武五年（1338）には寺に所蔵され、おそらく永仁年間に入手。治承三年（1179）書写奥書が古く、鎌倉時代写を中心に江戸時代の補写まで485巻。元禄年間に修補して現在につながる形態に。

*千々和到編『寿福寺の大般若経』（東国文化研究会、2003年）

○大悲願寺：あきる野市（旧・五日市町）・（都指定） *[あきる野市 HP](#)

治承年間書写、建武年間に奉納。522巻。（10行幅折本改装）

*東京都教育庁生涯学習部文化課編『大悲願寺所蔵文化財調査報告』下（1995年）

○高麗神社：日高市 *[日高市 HP](#)

下野・鶏足寺で顕学房慶弁一筆書写。建暦元年（1211）～承久二年（1220）の八年間。471巻（15巻：宮内庁書陵部、456帖：高麗神社・重文）。（10行幅折本改装）

*『日高市史』中世資料編（1995年）・通史編（2000年）

*横田稔編『高麗神社史料集』一・大般若経奥書集（高麗神社社務所、2010年）

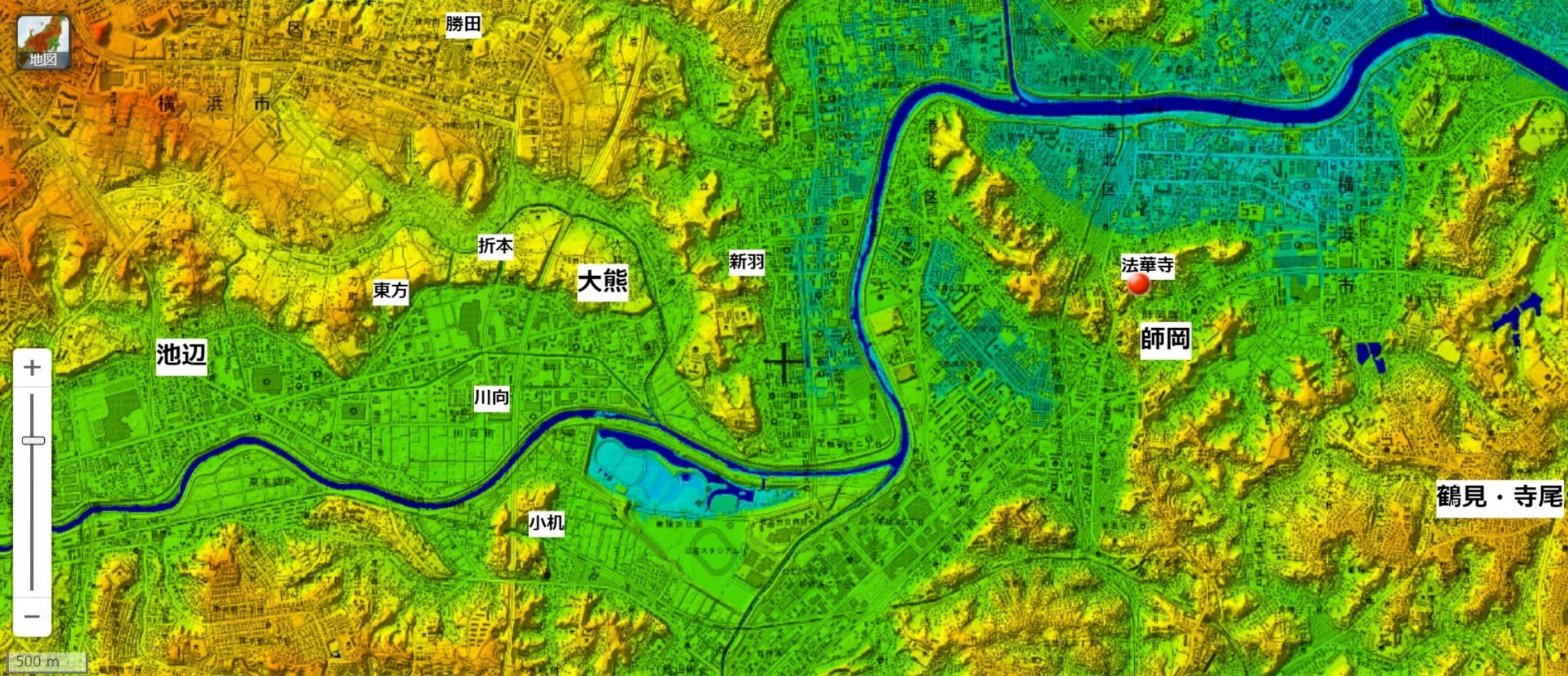
*大窪太朗「楽翁公松平定信の蒐集に係はる大般若経」（『書陵部紀要』3、1953年）

参考：石山寺一切経：『石山寺資料叢書』史料編三（法蔵館、2010年）『大方等大集経』卷第二（十七函3）奥書

「明応五年（丙辰）九月日、武州師岡保神奈河郷青木村本覚禅寺住僧、欲遠扶桑之夏夷、揮東漸之旧跡之処、当於此寺大蔵経補闕之境（而）依空忍法師勸誘（而）令逗留倉房、且奉書写此経（訖、）恨未免画蛇（而）添足之誤（而已、）」

※他に、『同』卷四・五・六・七・九、『阿差末菩薩経』卷七、『無尽意菩薩経』卷四・六などあり。神奈川県青木町：向かいの高島台に青木山本覚寺あり。

「鶴見寺尾郷絵図の世界」[チラシ裏](#)、[出品目録](#)



国土地理院Webサイト：地理院地図<https://maps.gsi.go.jp/>より
(デジタル標高地形図2008年3月横浜により着色、文字注記を加筆)